

ICP
IC1

Piezosurgery®用ICPチップを用いたインプラント体周囲のクリーニング

柴原歯科医院（福岡県太宰府市）

柴原 清隆

【はじめに】

インプラント治療が欠損補綴の重要な選択肢になり、インプラント周囲組織の保全が必要不可欠になってきた。筆者は抜歯および骨造成からインプラント埋入に至るまで、すべてのステップにおいて適宜Piezosurgery®を用いているが、メンテナンスも例外ではなくIPクリーニングチップIC1（図1）を臨床応用している。以下にその症例を示す。

【症例】

左下6番にインプラント補綴を行い、定期的なメンテナンスも行っていた。患者よりインプラントの部分から出血があるとの訴えがあり、スクリュー固定式の上部構造を外しプローピングを行うと（図2）、わずかな排膿とともに出血が見られた（図3）。非麻酔下でPiezosurgery®のIC1チップを用い、インプラントのネック部分を360度軽くなぞるようにクリーニングを行った（図4）。同処置を1週毎に4クール行くと1ヶ月後には排膿・出血ともになくなり、周囲組織が改善した（図5）。

【まとめ】

インプラント周囲炎は今後必ず起こってくる問題であり、本症例のようにインプラント周囲粘膜炎の状態を抑えることが肝要であると思われる。もちろん各種スケーラも有用であるが、歯科衛生士により他診療台で使われていることが多く、当院では専らPiezosurgery®のみで行っている。

ICPチップはPEEK素材で構成されており、インプラント体および上部構造を傷つけにくいいため、当てやすく非常に使いやすい。また、Piezosurgery®特有のキャビテーション効果により、膿汁・血液を洗い流すとともに周囲軟組織の搔爬も行える。

当院ではインプラント治療はすべて顕微鏡下にて行っているが、ハンドピースとチップの形状・角度が使いやすいPiezosurgery®は、マイクロスコープ診療との親和性が高い。

外科処置のみならずあらゆる処置で有用であるが、その都度準備するとスタッフもドクターも大変であるため、当院では図6のように毎朝の診療開始時にPiezosurgery®を各種チップとともに、キャスト上にもいつでも移動させて使えるように準備をしている。

このように将来的にもあらゆる治療法においてPiezosurgery®の有用性は増してくると思われる。



図1. IC1をチップホルダーICPに装着して使用する。



図2. 左下6番、上部構造を外しプローピングを実施。



図3. 出血とわずかな排膿が認められた。



図4. IC1を使用し、インプラントネック部をクリーニング。



図5. 周囲組織の改善が認められる。



図6. 毎朝の診療開始時にPiezosurgery®を準備。